平成29年度

事　業　報　告　書

社会福祉法人　芳清会

目　次

Ⅰ　総務課・・　１
Ⅱ 事業部・・　２
〔１〕　各種委員会･会議等・・　２
〔２〕　研修・・　４
１．外部研修・・　４
２．内部研修・・　６
〔３〕　年間行事・・　６
〔４〕　実習等受け入れ・・　７
〔５〕　ボランティア・・　８
〔６〕　医務室・・　８
〔７〕　栄養・・１２
〔８〕　特別養護老人ホーム・・１５
１．在籍・・１５
２．退居・・１５
３．新規入居・・１６
４．入居申し込みと待機者状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
５．入院実績・・１７
６．受診実績・・１７
７．要介護度推移・・・２０
８．平均年齢推移・・・２０
９．収入段階、利用料・・２０
１０．外出・・２１
１１．外泊・・２１
１２．面会・・２１
１３．相談員の業務を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
１４．その他・・２１
１５．介護・・２２
〔９〕　デイサービス・・２６
〔１０〕　ショートステイ・・２８
〔１１〕　居宅介護支援事業所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

Ⅰ．　総務課

〔１〕　【自衛消防訓練等】

１．第１回目

日　　時　平成２９年５月１２日　午後２時から午後３時

内　　容　総合訓練（避難・消火・夜間想定）

参加人数　約３２名（職員・入居者・利用者）

届出関係　川越消防署届出

スベリ台による避難

応急手当

消火用散水栓消火訓練

川越大東分署講評

２．第２回目

日　　時　平成２９年１０月１２日　午後２時から午後３時

内　　容　総合訓練（避難・消火）

参加人数　約２９名（職員・入居者・利用者）

届出関係　川越消防署届出

初期消火

通報訓練

消火用散水栓消火訓練

非常食試食

〔２〕　【職員健康診断】

１．第１回目

日　　時　平成２９年８月２４日・２５日　午前９時から午後０時
内　　容　全職員対象
受診人数　８７名
協力病院　医療法人社団清心会　至聖病院
健診内容　問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部ＸＰ（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・ＧＯＴ・ＧＰＴ・γ-ＧＴＰ・総コレステロール・ＨＤＬ-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C・胃部レントゲン

２．第２回目

日　　時　平成３０年２月２２日　午前９時から午後０時
内　　容　夜勤職員対象
受診人数　５１名
協力病院　医療法人社団清心会　至聖病院
健診内容　問診・聴診・身長・体重・腹囲・視力・聴力・血圧・心電図・胸部ＸＰ（間接撮影）・尿検査（糖・蛋白・ウロビリノーゲン・潜血）・抹消血液一般（白血球数・赤血球数・血色素量・ヘマトクリット）・ＧＯＴ・ＧＰＴ・γ-ＧＴＰ・総コレステロール・ＨＤＬ-コレステロール・中性脂肪・血糖・ヘモグロビンA1C

３．ストレスチェック

日　　時　平成２９年１２月
内　　容　全職員対象
受診人数　４３名
協力病院　医療法人社団清心会　至聖病院

Ⅱ　事業部

〔１〕各種委員会・会議等

１．衛生管理委員会

産業医の指導の下、入居者様や介護従事者の健康管理について検討を行った。特にインフルエンザが発症した際は情報の共有を徹底し、発生・感

染しないように加湿や手洗い方法、症状が見られた際の早めの対応等の体制を検討し、整えた。また、来所する方々にも『マスク着用・手洗い・うがい・検温』の協力を依頼し、外部からのウイルス侵入排除に努めた。その他、施設内備品の配置や扱い方、保管方法についても、産業医による巡回指導を実施した。また職員の健康診断、ストレスチェックを実施し、その結果についても再検診等の指導を行った。

２．苦情対策委員会

今年度、書面による苦情の申し出が 2 件あった。市から連絡があった、人事異動に対する不満と介護職員の介護方法についてのご指摘と、ご家族からの処遇に対する申し出であった。どちらも委員会内にて報告し、職員間で会議の場を設け、今後の対応について検討した。直接の申し出者は不明だったので、市へ説明を行った。その他、職員の対応についてのご意見を頂いたことがあったので、担当者で改善の為の話し合いを行い、再発防止に努めた。

３．事故・身体拘束防止委員会

今年度発生事故件数は、合計 646 件であった。前年度（705 件）に比べ、件数は減少している。事故に至る前の「気付きメモ」を積極的に活用し、リスクの共有が図れた結果とも思われる。事故内容を事業所別に見ると、デイサービス 12 件、ショートステイ 158 件、特養 464 件（２階・124 件、３階・176 件、４階・164 件)、医務 12 件であった。事故内容は傷や痣の発見が最も多く、7 割を占めていた。発生時は逐一ご家族へ報告（大小問わず）を行った。また今年度も骨折事故が発生してしまった。委員会内で情報を共有し、再発防止に向けての検討を行った。

委員会では、それぞれの事故についての原因究明と再発防止に努め、全職員が統一した認識を持って事故防止に取り組めるよう、施設内で起きた全ての事例を、全ての部署で確認できるようにした。

今年度もお一人お一人の予測される事故の「事故リスク一覧」を作成し、随時の見直しを行った。

４．褥瘡対策委員会

現在褥瘡が発症している方の状態報告と、褥瘡になる可能性がある方について、看護師と栄養士、介護職が情報を共有して改善策を検討した。取り組みの効果も見られ、入居時に褥瘡があった方も、完治に近い状態まで回復した。

５．排泄委員会

「おむつゼロ」への取り組みで、排泄習慣の確認や排便状況の情報収集を行った。おむつ使用量の減少や、摂取水分量の増加、下剤使用量の減少など、一定の成果が見られた。オムツ対応だった方をトイレに誘導する機会も増えている。今後も施設職員が一体となり、より良い排泄介助、より良い介護の提供へと取り組んでいく。

６．医療的ケア安全対策委員会

認定特定行為業務従事者登録を行った介護職員が、看護師の指導にて安全に医療的ケアが行えるよう、その仕組みや方法について検討した。

７．ケアプラン会議

ア）カンファレンスの開催

各利用者（入居者)」に対して６ヶ月毎にケアプラン会議を開催し、全入居者様のケアプランを作成した。アセスメントについては、施設独自の表を使い、それぞれの担当職員と他職種間で意見交換を行い作成した。また、更新や区分変更で要介護度が変更になった際や、入退院等で心身状態が大きく変化した際も臨時で会議を開催し、プランの変更を行った。作成したケアプランはご家族に送付し、署名を頂いた。

	会議件数		会議件数		会議件数
4 月	14	8 月	22	12 月	13
5 月	9	9 月	11	1 月	13
6 月	20	10 月	15	2 月	22
7 月	17	11 月	16	3 月	23
				合計	195

イ）看取り介護

平成 29 年度は看取り介護の方はいないものの、随時の情報交換や情報共有を徹底し、看取り介護体制の整備に努めた。年間 2 回実施する研修会の中では看取り介護についての体制、心構え等を改めて確認した。

今後も看取り介護に取り組む機会があると思われるので、ご家族や医師、各職種間で協力して取り組んでいきたい。

８．入居検討委員会

今年度も措置入居の事例はなく、申込書の記入内容と相談内容により、県の優先順位の規定に基づき検討した事が確認されている。

９．入居判定会議

今年度の新規入居は 16 名であった。その都度、入居申込者の中から優先順位の高い方の面談調査を行い、ご家族の意向とご本人の状態を基に、各フロアでの対応と生活介護上の課題について検討し、会議で検討された方は全員入居可となった。

１０．入居者自治会

入居者の方を個別に訪問してご意見を伺った。主に生活環境に対するご意見や、行事についての案内、また食事に対するご意見も多く聞かれ、「旬の食材を使った料理が食べたい」など、様々なご要望も頂いた。

〔２〕研修

１．外部研修

研修日	研　修　名	参加者
5 月 10 日	クレーム応対研修	１名
5 月 15 日 5 月 23 日	チームリーダーキャリアパス研修	１名
6 月 5 日	人材育成研修	２名
6 月 19 日 6 月 27 日	中堅職員キャリアパス研修	１名
6 月 23 日	感染症基礎研修	１名
6 月 30 日	ノロウイルス感染対策研修会	１名

7月31日 8月 3日	障害の理解とリハビリテーション「脳血管障害」	１名
8月 4日	看護職員研修	１名
8月24日	制度改革フォローアップ研修	２名
8月29日	腰痛予防対策講習会	２名
9月 7日	薬の基礎知識	３名
9月12日 9月13日	施設長研修会	１名
9月15日	高齢者がかかりやすい感染症	１名
9月 27日	アクティブ福祉 in 東京´17	４名
10月 2日	介護職員研修	１名
10月4日	スーパービジョン基礎研修	３名
10月11日	栄養士・調理員研修会	１名
10月25日	多職種の視点で食べるを深める	２名
10月26日 10月27日	ユニットケアフォローアップ研修	３名
11月2日	特別養護老人ホーム経営セミナー	１名
11月7日	埼玉老施協職員研修会	３名
11月10日	介護の日記念研修	１名
11月16日	感染症予防研修会	２名
11月17日	要援護高齢者等支援ネットワーク会議研修会	４名
11月13日	アンガーマネジメント研修	１名
11月16日	褥瘡・感染対策研修	２名
11月21日	生活相談員・ケアマネ合同研修会	１名
11月24日	高齢者虐待防止研修会	１名
11月28日	福祉施設のための苦情対応	１名
12月6日	RICOH Innovation Saitama	１名
12月13日	2018年報酬改定セミナー	１名
12月13日	医療介護フォーラム	１名
12月20日	労務管理セミナー	２名
1月23日 1月24日	チューター養成研修	２名
1月26日	介護職員施設間交流研修	１名

2 月 3 日	生活期リハビリテーション研修会	１名
2 月 13 日	地域における公益的な取組推進セミナー	３名
2 月 14 日	ストレスマネジメント研修	１名
2 月 22 日	介護報酬・制度改定セミナー	２名
2 月 19 日 3 月 8 日	制度改定・グリーフケア講座	１名

２．内部研修

研修日	研　修　内　容	講師（報告者）	参加人数
4 月 28 日	施設見学研修発表	特養所長	18 名
5 月 26 日	感染症研修会	看護師	21 名
6 月 9 日	事故防止研修会	特養所長	19 名
7 月 14 日	ケアプラン研修会	特養所長	12 名
8 月 22 日	ユマニチュード（認知症ケア）研修会	特養所長	14 名
9 月 8 日	高齢者虐待防止研修会	特養所長	15 名
9 月 22 日	看取り介護研修会	特養所長	14 名
10 月 17 日	介護研修会（電話応対について）	介護職員	18 名
10 月 20 日	介護研修会（薬について）	けやき薬局・薬局長	14 名
11 月 24 日	感染症研修会	看護師	20 名
12 月 26 日	事故防止研修会	介護職	17 名
1 月 29 日	褥瘡予防研修会	看護師	14 名
3 月 23 日	看取り介護研修会	特養所長	8 名
3 月 30 日	外部研修発表	介護職員	17 名

〔３〕年間行事

月　日	行事名	行事内容
4 月上旬	お花見	日東団地周辺、上奥富運動公園、水上公園等
4 月 27 日	歌謡ショー	演歌歌手の中島まさる氏による歌謡ショーを楽しまれた。歌や楽しいトークに、大変喜ばれていた。
4 月 29 日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。
9 月 17 日	敬老会	敬老会を開催した。古希から百五賀まで、30 名の方が表彰を受け、大勢のご家族にも参加して頂き、表彰式、ボランティアの方々の催し、昼食会を楽しまれた。
9 月 21 日	まきば保育園訪問	近隣の保育園児 38 名が来所し、歌や踊りを披露した。かわいい子供たちとの交流で、たくさんの笑顔を見ることができた。

10 月 1 日	八瀬の里祭り	晴天の中、吹奏楽演奏で開始となる。恒例のお囃子、模擬店開催と、賑やかなお祭りを味わって頂いた。
11 月 1 日	大東西小学校 JRC 活動	20 名の小学生が来所し、リコーダーの演奏やけん玉、演劇等を披露して交流を図った。特養とデイサービス利用者 26 名の方が楽しまれた。
11 月 23 日	お買い物会	日常生活の中で、交流の場所として買い物の雰囲気を楽しんで頂いた。
12 月 20 日	大東西中学校訪問交流会	中学校の生徒たち 82 名の訪問にて合唱や踊りの出し物等の披露を楽しんで頂き、地域交流を図った。特養とデイサービス利用者 45 名の方が楽しまれた。

〔４〕実習等受け入れ

項　　目	実習日時	人数	内　容・目　的
市立小・中学校 5 年経験者研修	8 月 17,18,22 日	3 名	他者への思いやりの心や公共心を深めるとともに、福祉分野に係わる学校教育以外の社会に視野を広げる。
大東西小学校町探検	11 月 21 日	30 名	地域の小学生が町の社会資源を探検して回る活動で、見聞を広める。
川越市立大東中学校 社会体験学習	2 月 21 日～23 日	2 名	学校では得られない経験を通して、豊かな感性や社会性、自立心を養い、豊かに生きる力を育む。
計	3 件	35 名	

〔５〕ボランティア

月	件数 人数	詳細
4 月	17 件 24 人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴
5 月	17 件 23 人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴、楽器演奏、琴
6 月	20 件 38 人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴、どじょうすくい、演芸
7 月	16 件 17 人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴
8 月	15 件 25 人	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴、楽器演奏、大正琴
9 月	15 件	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴

	16 人	
10 月	19 件	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴、八瀬の里祭、大正琴
	38 人	
11 月	16 件	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴、楽器演奏、琴、お手玉
	26 人	
12 月	17 件	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴
	24 人	
1 月	7 件	書道、紙芝居、折り紙、傾聴、お手玉
	12 人	
2 月	18 件	書道、ウクレレ、ハーモニカ演奏、紙芝居、折り紙、傾聴、大正琴、お手玉
	30 人	
3 月	15 件	書道、紙芝居、折り紙、傾聴、お手玉
	18 人	
合計	195 件	
	291 人	

〔６〕医務室

「『健康管理』に伴う基本方針」に基づき、入居者様および利用者様に対し健康管理および医療処置を行った。

「健康管理」に伴う基本方針

・ 入居者様の生活に障害となる疾病や症状に対して、健康面からの管理を行った。如何にその人らしく生活出来るかの可能性を探り、入居者様自身がどんな生活を望んでいるかと言う視点で、入居者様が毎日の生活を快適に過ごすことが出来る様サポートした。
・ 特に、疾病予防医療に重点を置き、どんな方法を使えば状態を維持出来るか、あるいは、苦痛無く回復出来るかを検討し、他の職種間との協働で健康管理サービスを提供した。
・ それぞれの入居者様の意思（ライフスタイル）を尊重し、入居者様自身、また、ご家族がどのような最期を望んでいるかを把握し、入居者様のリビングウィルに対応した健康管理サービス（医療処置）を提供した。

１．予防医療

ア．入居者様の健康状態の把握

(1) 介護職員の報告を把握し、ユニット訪問による入居者様の健康状態の把握に努めた。
(2) 毎日の排便をチェックし、下剤を調節して食物繊維や水分の摂取を促し、肛門診、坐薬、摘便等での排便のコントロールを行った。

イ．医療機関および医師による検診の実施

(1) ご家族様に健康診断実施の連絡をし、返信のあった川越市に住所のある入居者 55 名様（入院者 5 名、希望なし 2 名、返信なし 16 名を除く）に対し、帯津三敬病院の医師および看護師が八瀬の里に出張して健康診断を実施し、結果を配置医に報告し入居者様の診察をした。
　・ 健康診断実施日：平成 29 年 10 月 13 日

・ 健康診断受診結果については配置医へ回診時に報告。受診結果に応じて配置医から出された指示に基づき、ご家族に連絡の上、提携病院での受診対応を行なった。

(2) 狭山市に住所のある入居者 5 名様は提携病院（狭山市内）で健康診断を実施した。

(3) 入居期間の短い入居者様については、入居前に健康診断を実施済みのため省略した。（該当者 5 名）

(4) 退院直後の入居者様は省略とした。（該当者 3 名）

ウ. 流行性疾患蔓延の予防

(1)肺炎球菌ワクチン接種を希望者 3 名に実施した。

(2)インフルエンザ予防接種の実施。

・実施日：平成 29 年 11 月 9 日〔入居者様：89 名、職員：90 名（内別日 6 名)〕

エ. 感染の予防

(1) インフルエンザ、ノロウイルスの流行期にあたる 11 月から 4 月の間は、職員全員マスク着用とした。また、職員、入居者様に発熱があり感染症が疑われる場合は、職員全員が周知出来る様、職員玄関に表示し蔓延予防につとめた。

(2) 感染症の疑いのある入居者様については、早期隔離につとめ、感染の拡大を防いだ。

(3) 感染症対策委員会を定期的に開催し、施設職員が情報を共有し対策が取れる様にした。

【内部研修】

・平成 29 年 5 月 26 日　感染症予防研修会：食中毒

・平成 29 年 11 月 24 日　感染症予防研修会：インフルエンザ・ノロウイルス

【外部研修】

・平成 29 年 6 月 23 日　感染症研修会

本年度は 1 月に施設内でインフルエンザ A 型に 12 名（入所者 6 名、職員 8 名)、インフルエンザ B 型に 2 名（職員）感染し内入所者 5 名が入院となった。その為、1 月より職員・面会者の体温測定をおこない健康状態の把握につとめた。

２. 治療医療

ア.的確な症状の把握

(1) 介護職員の報告を把握し、バイタルサインの確認、異常症状発生以前からの状態の確認と変化した全身の状態を観察した。

(2) 医療機関およびご家族等の関係者からの入居者様情報の入手に努め、入手した情報を関係者に確実に連絡し、情報の共有化を図った。

イ.症状に適した処置の実施

(1)温冷罨法や安静にして様子を観察するなどにより、施設内処置を行った。

(2)配置医の指示を仰ぎ、入居者様の処置を行った。特別な医療処置が必要な入居者様に対して、日常必要な医療処置の経管栄養・吸引・外科的・皮膚科的・泌尿器科的処置、湿布、点眼を行った。

内容	人数（延べ人数）
経管栄養（鼻腔・胃瘻）	5 名
バルーンカテーテル留置	3 名
吸引	16 名
褥瘡	8 名

(3)必要時に医療機関で受診し、また、定期受診を継続した。（月別受診者数）

受診科／月	内科	外科	整形外科	眼科	耳鼻科	皮膚科	脳外科	精神科	糖尿病	循環器	内分泌	神経内科	口腔外科	婦人科	泌尿器科	形成外科	救急外来	合計
4 月	10	2	2	2		1	1	4		1						1	2	26
5 月	8	3						2				1					1	15
6 月	4	1	3	2		5	1	3									1	20
7 月	8		1	1		1	1	2				1				2	2	19
8 月	7	1	2	5		3		4				1			1		2	26
9 月	8	5	6	5		1	2	2									4	33
10 月	15	1	5	5		1		3								1	3	34
11 月	5	1	6	2		4	1	2				1					2	24
12 月	9	1	6	3		5		1							1	2	1	29
1 月	21	4	9			2		2							1		5	44
2 月	5	2	4	2		1	1	2				1					1	19
3 月	8	1	5	2		1	2	2								1	3	25
計	108	22	49	29		25	9	29		1		5			3	7	27	314

ウ. 誤薬の防止

(1) 医務における配薬マニュアルを作成し実施した。

(2) 配置医による服薬継続の確認を月 1 回おこなった。

(3) 入院による薬の変更について、退院後、薬局・病院に連絡した。

(4) 入居者の内服薬の見直しについて、薬局と情報交換をおこなった。

エ. 褥瘡の予防

(1)毎月、第一金曜日に褥瘡予防対策委員会を開催し、施設長を始め、所長、相談員、看護職、介護職、管理栄養士、理学療法士と入居者様の状態確認および褥瘡発生者、予防者について対応策を検討し協働と連携を図った。

① 褥瘡発生者、予防者について清潔・栄養・除圧の側面から評価し必要なケアを検討して実施出来るよう助言した。

② 褥瘡発生者について医師の診察のもと適切な処置をおこない、褥瘡の状態・処置内容を他職種と共有した。

③ 褥瘡予防者の皮膚の観察を行い、状態を報告し必要なケアを検討した。

⑵看護職員、介護職員、管理栄養士、理学療法士との連携により、褥瘡の予防が図れた。また褥瘡予防に対する理解を深めるため、研修会を行った。

【内部研修】

・平成 30 年 1 月 29 日 褥瘡予防研修会

【外部研修】

・平成 29 年 11 月 16 日 チームで取り組む褥瘡対策・感染対策

３．入居者様の意思を尊重した健康管理サービスの提供。

ア．入居時および入居後の健康状態の変化に合わせ、リビングウィルを確認した。

イ．入居者様の夜間の急変時に備え、看護師は 24 時間のオンコール体制を取った。

ウ．看取りケアに関し、施設内で研修を行った。

エ．外部研修の受講により知識を習得し、また職員を対象とした勉強会を実施することで、看取りケアを考える機会を得た。

【内部研修】

・平成 29 年 3 月 20 日　看取り介護研修会

【外部研修】

・平成 29 年 12 月 6 日　ターミナルケア研修

４．均一な医療サービスの提供

ア．毎朝のミーティングでの申し送りとカンファレンスを随時実施し、入所者様の状態の把握や情報を医務内で共有した。

イ．実施した医療処置、健康状態、受診結果について記録に残し、併せて緊急時に適切な対応が取れるよう、関係部署との連携を図った。

ウ．必要な医療処置について外部研修の受講により知識を習得した。また看護師間の勉強会を実施し、医療知識、技術のレベルアップを図ると共に、介護職員への研修を実施して協働連携し、医療事故の防止に努めた。また、医療的ケア会議（5 回/年）によりケアの再確認ができた。

５．災害・非常時への準備

ア．災害・非常時においても、入居者様、職員、地域の方々へ対応できるように保管場所（3 階エレベーター前倉庫）において応急処置用品の確認を行った。

イ．入居者様の非常時持ち出し品一覧表を作成し、全職員が周知し実際に行動できるように準備した。

ウ．応急処置物品の管理に関しては消費期限があるため、数量の検討と物品の見直した。（平成 30 年 3 月）

６．ショートステイ利用者様への対応

ア.ショートステイの申し送りに毎日参加し情報把握に努めた。

イ.ショートステイ利用者様の心身状態を観察し、必要に応じて医療処置を行った。

ウ.ショートステイ利用者様の急変時、受診の要否を判断し、状況に応じた適切な対応を行った。

エ.夜間におけるショートステイ利用者様の急変のオンコールに対し、必要な対応を指示すると共に、状況に応じた適切な対応を行った。

オ.空床利用者様の情報を把握し必要に応じ医療処置を行った。

７．看護職員および介護職員の連携による取り組み

ア．入居者様の高齢化に伴うADL（Activity of Daily Living：日常生活動作）の低下予防と現状維持に努めるため、個別機能訓練計画書を作成し、介護職員と連携を図りながら取り組んだ。

イ．個別機能訓練計画書に基づき、個別に機能訓練を実施、記録した。
3ヶ月毎の評価と見直しを実施した。

ウ．一部医療処置（口腔内吸引、胃ろう注入の介助）について一定の条件を満たした介護職員から協力を得られるようになった。また、実際に処置を行うために、研修を修了し施設長から配置医に申請して承認を受けた介護職員が入居者様やご家族の同意を得て実施した。
夜間用の吸引計画、実施記録用紙を作成し、頻回に吸引を必要とする入居者様に使用した。

８．施設内勉強会への参加

入居者様に安全・安楽な生活をして頂けるよう、各種勉強会に参加した。

〔７〕栄養科

１．食の改善計画

基本方針として、「食べる喜びを、生きる喜びへつなげる食事提供」「個人への最適な栄養ケア」「口腔機能の維持向上にむけた支援」の三点を挙げ活動を行なった。

委託業者との話し合いにおいて食事内容の改善を行い、入居者様に食べやすいメニューはもちろん、色彩や盛付けに工夫を凝らし、入居者様に喜んで召し上がって頂けるような食事提供に努めた。また簡単な食事やおやつ作りを一緒に行い、食事作りの音や香りを楽しんで頂くことができた。さらに入居者様の状態の変化に合わせたきめ細かい栄養ケアを目指し、各部署や厨房との連携を密に取りながら情報共有に努め、出来る限り個人の嗜好や体調等に合わせた食事提供を行った。

栄養ケアマネジメントにおいては、ケア計画の内容に従って食事・水分摂取状況や入居者様の状態の変化を把握し、３か月ごとに評価を行った。その中で低体重や体重減少者においては必要に応じて補食や栄養補助食品を、嚥下機能の低下がみられる入居者様には、ミキサー粥・ムース食・トロミ剤・水分補給ゼリーの検討を行った。

ア）２Ｆ

入居者様の嗜好や要望に沿った食事内容を検討し提供を行った。おやつレクリエーションでは、入居者様と一緒にパンケーキなど簡単なおやつの調理を行い、誕生日会にはロールケーキを提供した。食事レクでは、そうめんやたこ焼き、お好み焼きなどユニット職員と協力して企画・調理を行い、見た目でも楽しめる提供を心掛けた。

イ）３Ｆ

入居者様の状態に合わせ、誕生日会には入居者様全員が食べることのできるプリンアラモードを提供した。食事レクでは、入居者様の意向に沿って、お好み焼きやたこ焼きを提供し、楽しくおいしい食事レクを実施した。

ウ）４Ｆ

入居者様の身体状況や嗜好、食べやすい食事形態に配慮し、出来る限り個々の状態に合わせた形態の提供が出来た。おやつレクでは、ロールケーキを中心に、嚥下状態に合せプリンやコーヒーゼリーをデコレーションし、手作りの雰囲気を楽しみながら、食欲増進につなげることができた。

エ）デイサービス

どの利用者様にも満足して頂ける食事提供を目標とし、食事内容の一部を変更した献立や数種類のおやつを提供した。月に一度、季節感のある食材を使用した昼食バイキングやおやつバイキングを実施、選ぶ楽しみを味わって頂き、食事の雰囲気作りにも配慮したサービスの提供ができた。その他、誕生日のロールケーキの提供や利用者様と職員が一緒に簡単なおやつ作りをし、親交を深めるレクリエーションが多かった。

オ）ショートステイ

利用者様の状態に適した食事形態を検討し、また、様々な個人の嗜好に合わせ禁食代替食材を準備し、食事提供を行った。

２．栄養ケアマネジメント

（１）入居者様全員を対象とし、栄養ケア計画書の作成を行なった。栄養スクリーニングを行い、アセスメントを実施すると共に中・高リスク者の把握を行い、高リスク者は２週間に１度、中リスク者は１か月に１度モニタリングを実施しながら、３か月ごとの評価を基に、プランの確認や変更を行った。低体重や体重が減少傾向にある方、食事摂取不良や体調不良の方への対応として、各部署と情報を共有し、補食や嗜好に合った食事を提供しながら日々の体調管理に努めた。また、嚥下機能が低下した方への食事内容の検討を行った。

（２）食事環境の把握をする為に、各ユニットに訪問し、入居者様の食事摂取状況の観察を行った。各ユニットの担当介護職員から入居者様の体調や普段の食事状況について情報収集を行い、入居者様からは食事に対する様々なご意見を多く頂くことができた。

（３）個別の食事対応としては、毎朝パン食・おにぎり食・牛乳の代わりにヨーグルトやジュースでの提供を実施した。その他、嗜好品としては野菜ジュースやみそ類提供、水分摂取強化には水分補給ゼリー、体重コントロールの為に低エネルギー甘味料の提供を行った。

（４）経管栄養の方の排便状況を観察し、栄養成分を考慮し使用する濃厚流動食の検討を行った。

（５）排便コントロールを図るため、水溶性食物繊維の提供を行った。朝食時の味噌汁や水分に 10ｇの食物繊維を加え摂取して頂き、経過観察を行った。個々の排便パターンや食事・水分摂取量のチェックを行い、看護職員・介護職員と連携し、必要に応じて食物繊維の調整（10ｇ～20ｇ）を行った。

個人によって効果の差はあるが、排便リズムが整い、改善傾向の方もいる為、今後も継続していく。

３．栄養管理

（１）施設食事サービス業務全般において総括し、各施設内関係部門との連絡調整、委託業者への指示を行った。

（２）献立の確認・指示、食数の指示・管理、食事箋の作成・管理、嗜好調査の実施、検食の実施と検食簿の記入・管理、関係官庁等に提出する給食関係の書類の作成・確認・提出・保管・管理を行った。

（３）毎月一度（第四火曜日）に栄養管理委員会を実施し、各部署と委託業者と食事対応や提供メニューの内容について良かった点や改善すべき点を話し合った。食への向上と入居者様の健康管理を目的とし、食事量や食材の大きさ、嚥下困難者に対するトロミの量について意見交換をし、対応策を検討することができた。誤配膳や異物混入防止については、食事変更時の情報共有だけでなく配膳前チェックの具体的な方法について委託業者とともに検討を行い、安全に配慮した食事提供に努めた。

４．委託業者との連携

（１）委託業者変更にあたり、７月から１１月の営業開始まで、委託業者担当者と材料費交渉、業務分担・費用負担区分の取り決め、提供方法詳細の打ち合わせ、パート従業員継続雇用のための面接スケジュール調整などを行った。

（２）調理作業全般、食材管理、施設設備管理、厨房内衛生管理において、委託業者の栄養士と連携を取り、管理を行った。

（３）労働安全、衛生の管理として、施設栄養士を含む、調理作業に携わる調理師、栄養士全員を対象に、検便を定期的に実施した。

５．行事食、食事レクリエーションの実施

（１）季節感を味わって頂く為、年中行事を中心とした行事食を月に１度の割合で提供した。

（２）フロア企画のレクリエーションとして、喫茶サービスや季節にちなんだおやつの提供、昼食バイキングを行った。献立の調整、食材の発注・管理、調理工程の確認をして実施した。

（３）栄養士企画レクリエーションとしては、夏に各フロアでおやつのかき氷サービス、冬にはぜんざいの提供をした。

６．　老人福祉施設栄養士情報連絡会への参加

栄養業務における情報意見交換　・平成２９年　５月１３日

〔８〕特別養護老人ホーム

１．在　籍

入居者様の年齢が高齢になる中で、長期入院、医療施設転院の情況がある。3 月 31 日の在籍者は 95 人となっている。

療養型施設への転出、入院の長期化や死亡等での空室日数があり、平成 29 年度の在居率は 93.9%、平均在籍者数 94.9 名である。

特養に於ける短期入所生活介護の空床利用について利用延べ人数は 1,473 名となっている。

次に入居して頂く対象者へは、当施設「優先入居に係わる取扱規定」による優先順位に基づき、入居順位検討結果を平成 30 年 3 月末に送付している。ご家族や関係者各位に連絡し、入居して頂けるように手続きを進め、平成 29 年度における退居日から新規入居日までの期間は平均約 11.5 日間である。

表１に示す通り、平成 29 年度の男女比率は、男性が 35%、女性 65%となり、前年と同様に女性の入居割合が高くなっている。

表１．平成 29 年度入居者男女比率（平成 30 年 3 月 31 日現在）

	平成 28 年度		平成 29 年度	
	人数	割合	人数	割合
男性	33 名	35%	31 名	33%
女性	61 名	65%	64 名	67%
合計	94 名	100%	95 名	100%

２.退　居

表２に示すように、平成 29 年度の退居者は 15 名であった。死亡による退居者が 9 名、療養型施設に転院が 3 名、他介護施設入所 1 名、在宅 2 名となっている。

表２.平成 29 年度退居者一覧

年　月	退居者数	退居理由
平成 29 年 4 月	3 名	死亡 2 名（病院にて）療養型 1 名
8 月	1 名	死亡 1 名（病院にて）
9 月	4 名	死亡 2 名（病院にて 2 名）在宅 1 名、有料 1 名
10 月	3 名	死亡 3 名（病院にて 3 名）
12 月	1 名	死亡 1 名（病院にて）
平成 30 年 1 月	1 名	在宅
2 月	1 名	療養型
3 月	1 名	療養型
合計	15 名	

表３．年度別退居者数の推移（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平29	3				1	4	3		1	1	1	1	15
平28	1	3	2	2	4	1	0	1	0	3	2	1	20

３．新規入居

表４に示す通り、新規入居者様は 16 名、その内自宅待機 13 名、老人保健施設待機 2 名、他介護施設 1 名となっている。医療機関のサービスを継続的に利用しながら、特養を待機されている。自宅待機者の方々も、短期入所介護を利用されている。それぞれの部署と連携を取りながら、今後も迅速な入居に努める。

表４．平成 29 年度新規入居者一覧

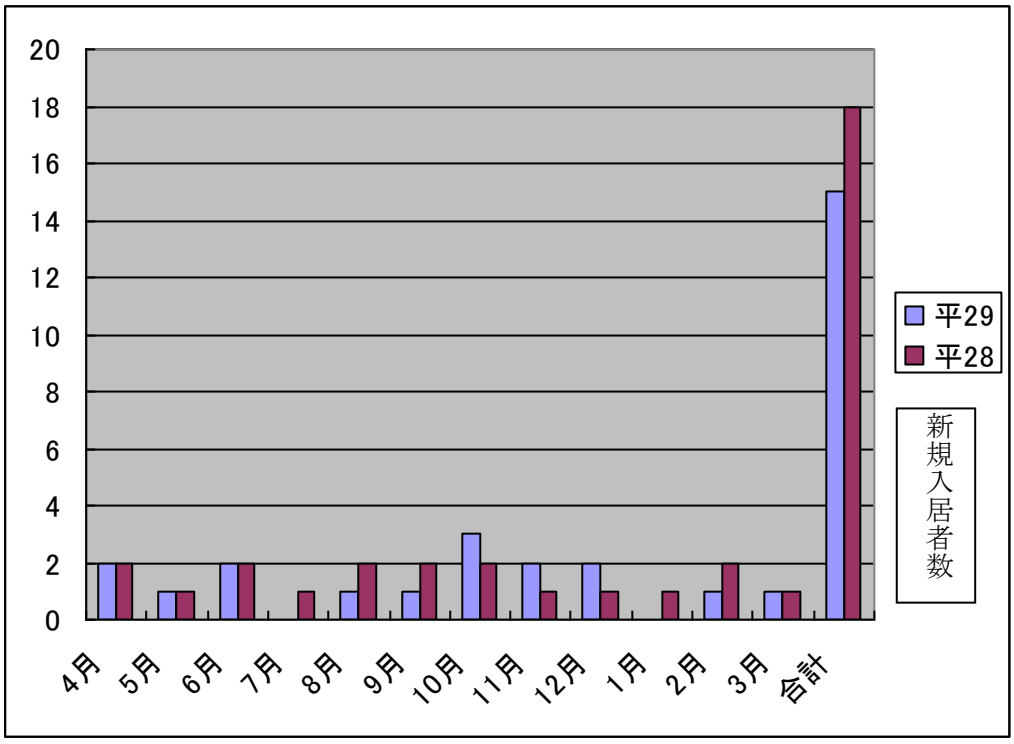
年　月	新規入居者数	入居前の居所
平成 29 年 4 月	2 名	在宅 2 名
5 月	1 名	在宅 1 名
6 月	2 名	在宅 1 名　老健 1 名
7 月	0 名	
8 月	1 名	在宅 1 名
9 月	1 名	在宅 1 名
10 月	3 名	在宅 2 名　老健 1 名
11 月	2 名	在宅 2 名
12 月	2 名	在宅 2 名
平成 30 年 1 月	0 名	
2 月	1 名	療養型 1 名
3 月	1 名	在宅 1 名
合　計	16 名	

表５．新規入居者の介護度と男女構成比

	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
入居者（人）	0	0	4	8	4
女　　性	0	0	2	6	2
男　　性	0	0	2	2	2

表６．年度別新規入居者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平29	2	1	2	0	1	1	3	2	2	0	1	1	16
平28	2	1	2	1	2	2	2	1	1	1	2	1	18



4．入居申し込みと待機者状況

平成 29 年 4 月から平成 30 年 3 月の間の新規申込は 46 件であった。また、この期間中の申込取下は 19 件であった。平成 30 年 3 月末における入居待機者数は、194 人となっている。

取下げ理由として、待機中の死亡が大半を占めている。

5．入院実績の推移

長期入院及び療養型病院への転院もあり、入院中の重篤化が顕著となり、早期受診を実施するも症状の緩和に繋がらず医療に利用者及び家族が翻弄されている。

昨年度同様、早期受診を行いながら、入院されている入居者様及びご家族の負担軽減の為に、空床利用を推進することを都度ご提案していく。

※入院推移については「平成 29 年度　入院者数の推移」参照

6．受診実績

受診の頻度は、月平均にすると 30.6 回となり前年度より増加している。

ご入居者様の高齢化を踏まえ、日常生活の健康状態について回診での診察、施設内における体調の経過記録からも、今後も状態変化に早めの対応が考慮される。

表８. 受診実績の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平 29 年度 合計回数	26	15	20	19	26	33	34	24	29	44	19	25	314
平 28 年度 合計回数	39	23	45	34	33	31	33	35	28	23	19	24	367

平成 29 年度　在居者数の推移

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 日	90	88	92	92	93	90	89	89	92	93	88	92
2 日	90	89	92	92	93	89	90	89	91	93	87	92
3 日	90	88	92	92	91	89	88	89	91	92	86	92
4 日	90	88	92	92	91	89	87	88	91	93	86	92
5 日	89	88	92	92	91	89	87	87	91	93	86	92
6 日	88	88	92	92	89	89	86	87	93	91	88	92
7 日	88	87	93	92	89	89	86	87	93	90	89	92
8 日	88	87	93	92	89	90	87	88	92	90	89	91
9 日	88	88	93	92	89	90	87	89	92	90	92	91
10 日	88	88	92	92	90	90	87	89	91	89	92	91
11 日	88	88	92	91	90	90	86	89	91	88	92	91
12 日	89	88	92	91	90	91	86	89	91	87	91	91
13 日	89	88	92	91	90	92	87	89	91	85	91	90
14 日	89	88	92	92	90	92	87	90	91	83	92	90
15 日	89	88	92	92	91	92	87	90	92	83	92	90
16 日	89	89	92	92	91	92	87	90	92	83	93	91
17 日	89	89	92	92	91	91	87	90	92	82	92	91
18 日	88	90	92	92	91	90	86	90	93	83	92	91
19 日	88	90	92	92	91	90	87	90	93	84	93	91
20 日	88	90	92	92	90	90	87	90	93	84	92	90
21 日	88	90	94	91	90	90	87	90	93	84	92	90
22 日	88	90	94	91	91	90	87	92	93	86	92	90
23 日	89	91	94	91	91	89	87	92	92	88	92	90
24 日	91	91	94	92	91	89	87	92	92	89	92	90
25 日	91	92	94	92	91	89	87	92	92	89	92	90
26 日	91	92	94	92	91	90	89	92	94	89	92	90
27 日	91	92	94	93	91	92	89	92	94	87	92	88
28 日	90	92	94	93	91	92	89	92	94	87	92	87
29 日	89	93	93	92	91	92	89	92	94	87	88	87
30 日	89	92	93	92	90	91	91	92	94	87		87
31 日		92		92	90		90		93	89		87
月間在居人数	2,672	2,774	2,781	2,848	2,808	2,708	2,713	2,697	2,861	2,718	2,539	2,799
定員数	2,880	2,976	2,880	2,976	2,976	2,880	2,976	2,880	2,976	2,976	2,688	2,976
平成 29 年度 在居率	89.78	93.21	96.56	95.70	94.35	94.03	91.66	93.65	96.14	91.33	94.46	94.05

★平均在居率　93.9%　（年間在居人数 32,918 人　年間定員数 35,040 人）

平成 29 年度　入院者数の推移

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 日	5	4	2	4	3	6	4	4	3	3	7	3
2 日	5	4	2	4	3	7	4	4	4	3	8	3
3 日	5	5	2	4	5	6	6	4	4	4	9	3
4 日	5	5	2	4	4	6	7	5	4	3	9	3
5 日	6	5	2	4	4	6	7	6	4	3	9	3
6 日	7	5	2	4	6	6	8	6	2	5	7	3
7 日	7	6	2	4	6	6	8	4	3	6	6	3
8 日	7	6	2	4	6	5	6	6	3	6	6	4
9 日	7	5	2	4	6	5	6	6	3	6	4	4
10 日	7	5	3	4	5	5	6	6	4	7	4	4
11 日	7	5	3	5	6	5	7	6	4	8	4	4
12 日	6	5	3	5	6	4	7	6	4	9	3	4
13 日	6	5	3	5	6	4	7	6	4	11	3	5
14 日	6	5	3	4	6	4	7	5	4	14	4	4
15 日	6	5	3	4	5	4	7	5	3	14	4	4
16 日	6	4	3	4	5	4	7	5	3	14	3	4
17 日	6	4	3	4	5	5	7	5	3	13	3	4
18 日	7	3	3	4	5	6	8	5	2	12	3	4
19 日	7	3	3	4	5	6	7	5	2	11	2	4
20 日	6	3	3	4	6	6	7	5	2	11	3	5
21 日	6	3	2	5	6	6	7	5	2	11	3	5
22 日	6	3	2	5	5	6	7	3	2	9	3	5
23 日	5	2	2	5	5	7	7	3	3	7	3	5
24 日	5	2	2	4	5	7	8	3	3	6	3	5
25 日	3	1	2	4	5	7	8	3	3	6	3	5
26 日	3	1	2	4	5	6	5	3	2	6	3	5
27 日	3	1	2	3	5	2	5	3	2	8	3	7
28 日	4	1	2	3	5	2	5	3	2	8	3	8
29 日	4	1	3	4	5	2	5	3	2	8		8
30 日	4	2	3	4	6	3	3	3	2	8		8
31 日	4	2		4	6		4		3	6		8
平 29 年度	171	111	73	128	161	154	197	136	91	246	125	144

（年間延べ人数 1,737 人　月平均 144.8 人）

平 28 年度	154	233	237	283	154	65	96	151	115	175	186	140

（年間延べ人数 1,989 人　月平均 165.8 人）

５．要介護度推移

表 9 の通り、身体の状態の変化が大きく、今年度一年間の介護度は、平均介護度 3.8 となっている。

表９.要介護度の推移（平成 29 年度平均介護度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
介 1（人）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
介 2（人）	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
介 3（人）	28	28	28	28	29	31	31	32	31	30	31	30
介 4（人）	40	40	40	39	39	38	39	38	38	40	39	39
介 5（人）	24	22	24	25	25	24	22	21	24	22	22	23
平 29 平均介護度	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8
平 28 平均介護度	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9

６．平均年齢推移

入居者平均年齢 86.1 歳（女性：90.8 歳、男性：82.1 歳）

表 10. 平均年齢の推移 3

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
男　性	81.46	81.93	82.02	82.10	82.18	82.27	82.25	82.01	82.09	82.20	82.28	81.99
女　性	89.89	89.97	89.97	90.05	90.07	90.12	90.13	90.11	90.30	90.38	90.47	90.69
平２９年度全体	86.99	87.32	87.40	87.48	87.55	87.61	87.59	87.30	87.51	87.65	87.74	87.88
平２８年度全体	87.52	87.60	87.51	87.25	87.27	87.12	87.18	87.25	87.25	87.35	86.91	86.93

７．収入段階、利用料

収入段階による利用料は、減免申請により、第 2,3 段階が 48 名となっている。女性の新規入居者様のご家族が、負担限度額段階区分の申請をされ、自己負担の軽減を図られている。

	平成 29 年度末		平成 28 年度末	
収入段階	人数	構成比率(%)	人数	構成比率(%)
第１段階	0	0	0	0
第２段階	18	19	18	19
第３段階	30	32	30	32
第４段階	46	49	46	49
合　計	94	100	94	100

８．外出

平成 29 年 4 月 1 日から 30 年 3 月 31 日の間の、入居者様がご家族と外出した回数を示したものが表 12 である。外出要因として、主に自宅やご家族の家への外出や、外食、通院などが上げられる。

今年度は、のべ 85 名の方々が外出されている。

表 12. 家族との外出回数

外出回数	人数	比率（%）
5～10	31	37
4	19	22
3	11	13
2	8	9
1	16	19
0	0	0
計	85	100

９．外泊

今年度は外泊の件数は 4 件（4 名）となっている。特定の利用者様が複数回の外泊をされている。ご家族の希望、要望に沿って、介護タクシー手配、車椅子活用、各部署の事前連絡、状態確認も含め、今後も対応に努める。

１０．面会

今年度の面会者の総数は、延べ 6,633 人と多くの方に来て頂けた。１日の面会者の平均人数は 18 人であった。

ご家族が来所の際は、なるべく日頃のご様子を伝えることにしている。ほぼ毎日面会に来られるご家族もいらっしゃり、安心して生活を送れている。来年度も引き続き多くの方に面会に来て頂けるように、ご家族へ働きかけを行っていく。

１１．生活相談員の業務を振り返って

長期入院や療養型への転院が際立っていた年度であったが、職員各々が責任をもって家族への連絡や諸対応を行って頂き、重篤化を未然に防ぐ事ができた。

１２．その他

（１）居室の有効利用

前年度に引き続き、入院される入居者様及びご家族の負担軽減を図る為、居室の有効利用（空床利用）をご家族に提案し、実行した。

重ねて、近隣の緊急性の高い短期入所希望の方々の受け入れを積極的に行い、入居者様に限らず介護保険をご利用されている皆様が安心してご利用できる

よう、関係部署との連携を密にし、日程の調整に努めた。

（２）ご家族への連絡

状態の変化についての報告を各階フロア職員の協力も得られ、相談員不在時の報告を行なえた。相談員勤務時には入院者状況の確認（日中は月曜日、金曜日行い夕方 17：30 以降は毎日）を行い状態変化が見られる場合は逐一報告に努めた。

（３）保険情報提供

厚生労働省及び、各種外郭機関の情報収集に努め「介護保険」に留まらず「医療、障害保険、障害者年金、自立支援医療受給者証」の情報提供を行なった。

１３．介護

【ケアプラン】

ケアプラン作成、モニタリングの実施により、入居者様に対して、メリハリのある生活の提供は一定の水準で行えている。ユニット会議での話し合いの実施等でフロア・ユニット内での連携も築かれており、ケアプランの作成に伴い情報の共有化も出来ている。身体能力の維持や安全に配慮した機能訓練の取り入れ、また他者との係わりあいや気分転換を取り入れる等、身体的・精神的要望の充足にも配慮したプランを作成した。

【カンファレンス】

入居者様、一人ひとりの無理の無い計画に基づき、各専門職との意見交換は計画的に行えた。また、入退院等により、状況に変化が見られる入居者様については、担当介護職員とケアマネジャー、機能訓練指導員、看護師との連携により速やかに計画を再立案し、カンファレンスを行うことが出来た。

【モニタリング】

作成されたケアプランの情報を共有化し、フロア職員全体でモニタリングを行った。リハビリを中心としたモニタリングについては、機能訓練指導員を中心とし、担当介護職員も積極的に訓練を実施し、毎月評価した。

【身体的ケア】

（１）食事

入居者様の身体状況の変化に合わせた食事形態を、日々の状況や職員間の情報を共有し、検討しながら提供できた。また食事を楽しんで頂くために、外食や食事レクリエーション等を計画・実施し、趣向を凝らしたメニューを提供した。食事摂取量や体重の増減についても栄養科や医務と連携し、提供量の調整や栄養補助食品の追加等で健康維持にも努めた。

（２）入浴

入居者様の身体状況や精神状況に合わせた入浴場の提供が出来た。また、身体状況により入浴が困難な方においては、洗身用品を用いた全身清拭と更衣を実施し、週 2 回の入浴は予定通りに提供する事が出来た。入浴日の変更を極力減らして、ご本人の生活リズムを崩さないように努めたが、急な変更が生じる場面もあった。入浴日の固定化が出来るよう、人数配分の見直しと管理を行っていく。

（３）排泄

引き続き、下剤に頼らない自然排便に向けた取り組みとして、入居者様のトイレやポータブルトイレへの排泄に取り組んでいる。食物繊維や水分摂取の状況を確認しながら、医務、栄養科と連携を取っていく。

今後もそれぞれの方の身体機能の状況に合わせ、無理のないよう事故に注意しながら介助していく。

（４）更衣

入居者様の意向を尊重しつつ、季節や身体状況に合わせた服装を、個々の身体機能に合わせて行った。また、更衣の際に皮膚の状態観察を行い、怪我の早期発見に努めた。

（５）整容・口腔ケア

口腔内の清潔に努め、歯科医師とも連携し、口腔ケアを行った。また、胃瘻や経管栄養の入居者様についても、歯科医師に介助方法や道具についてアドバイスを頂きながら、口腔内の清潔保持に努めた。

整容では、各ユニットで年間の表を作り、計画的に理美容をご利用頂けるよう取り組んだ。

（６）健康管理・水分補給

普段の生活を見守る中で、看護師や職員間の情報共有を行って体調の変化を速やかに察知し、対応する事に努めた。水分摂取量確保の為、飲み物の嗜好や提供間隔を個別に検討し、トロミをつける・甘い物を提供する、提供回数を増やす等の対応を行った。摂取量に波があり、安定して摂取されない方については、栄養士や看護師とも協力して提供方法の変更や高カロリー飲料、水分ゼリー等で対応した。排泄ケアと関連付けられる摂取量についても、1000 ccを最低基準として、一定の水分量確保の為の援助が出来た。

（７）アクティビティ

日常生活の中で、入居者様の個々の楽しみを尊重し外出や外食等の機会を提供した。またその他、季節感のある行事等も職員間で提案し、お花見や花火等の季節的な楽しみの提供を行った。また生活の中に役割を見つけて頂く為、清掃や軽作業を手伝って頂いた。職員は入居者様の個々の生活も尊重しつつ、手伝って頂いた事への感謝の気持ちを言葉や態度で表す事に努めた。

（８）レクリエーション

入居者様同士の交流や季節感を大切にした企画を行い、毎年恒例の企画や誕生日会、食事レクや外食レクを行い事故も無く好評だった。ボランティアの方々の演奏会や太極拳等、施設外の方々とも交流の機会を設けて社会的繋がりの構築も行った。今後も近隣の学校やボランティアとの関わりを増やし、楽しめる時間を提供するとともに、要望を取り入れたレクリエーションの提供を行っていく。

（９）機能訓練

日々の生活の中で実施可能な機能訓練を取り入れ、機能訓練指導員の指示のもと看護師とも協力しながら個別機能訓練を行った。体操レクや散歩等も取り入れ、声掛けを日々繰り返し行う事で、生活の中に機能訓練を取り入れる事が出来た。自発的に機能維持に取り組んで頂けるよう、入居者様の意向を取り入れながら継続していく。

（１０）その他

・ベッド周りやトイレ内の危険個所に保護材を使用し、ケガの防止に努めた。

・新入職員を中心に施設内・外の研修会や勉強会への参加を行い、参加出来なかった職員もビデオを見ながら足りない部分は情報を共有する事で知識の取得

に努めた。

・備品を丁寧に扱う事や消耗品の無駄遣いを無くす事を心掛け、発注担当を持ち回りとする事で消費量を把握し、現状把握と節約に努めた。

・入居者様やご家族への接遇に対して、ユニットリーダーを中心に改善に努めた。

【精神的ケア】

個人の空間を大切にする為、食事の場所や作業スペースの固定化に努め、いつもの場所で落ち着いて過ごして頂けるように配慮した。居室で過ごされる事が多い方へも、おやつの時間はリビングで過ごして頂いたり職員が居室へ伺ったりといった配慮を行い、関係の構築に努めた。時には入居者様に手伝って頂いたり、助言をして頂きながら環境整備を行い、金魚や植物の世話を行った。今後は季節の花の育成にも力を入れて視覚的な環境美化も取り入れていくように努めていく。また、入居者様との会話を重視し、密接な関係を作ることにも努めた。日々の生活に不自由の無いように配慮しつつ、良好な関係を保てるように支援していくことが出来た。また職員の対応について、大きな苦情等は見られないが、職員の言葉遣いや接遇態度の更なる向上に努める。

【社会的ケア】

ユニット内だけで無く、他ユニットの方との交流機会を散歩や合同レクを行う事で、関係深化に努めた。また、職員やボランティアがお話を傾聴する機会を作り、集団だけでなく個々の交流にも努めた。また、地域との交流を深めるため、入居者様の気分転換のための定期的な外出や散歩等、時間を設定し積極的に行うよう努力し入居者様ご家族との会話、情報の提供のお願いなどスムーズに行えた。入居者様の起床、就寝などの生活リズムにあったケアの提供では、入居者様の生活リズムに合わせて行えた。更にライフスタイルの尊重では、フェイスシートやご家族からの情報などにより、その入居者様のライフスタイルの性格、特徴を職員間で認識できた。今後も入居者様の状態の変化に応じて、個別対応に留意していく。

【環境整備】

居室内の床清掃、コップや歯ブラシ消毒は職員全体で協力して行い、共用部分は職員が交代で清掃を行うよう役割分担を整備した。また、安全に配慮して備品の配置を変更し、整理整頓を心掛けた。居室等の清掃は一部入居者様にも手伝って頂く事で、役割や愛着を感じて頂けるように努めた。今後は時間の効率的な活用に努め、申し送りを行って時間帯や日を分けて清掃を行うと言った柔軟な対応も取り入れていく。

【その他】

・２階

（１）ケアプラン及びカンファレンス

入居者様の日常生活における解決すべき課題やニーズについて、ユニット会議や職員同士の話し合いの場を作る事で、職員一人一人が入居者様と真剣に向き合い、統一したケアを行うよう心がけた。また、入居者様の身体状況に変化が見られた際には、職員一人ひとりが迅速に現状を把握し、リーダーを中心に情報の共有を図り新たな介護方法やケアプランの実践に努めた。

（２）身体ケア

日常のケアの面では、入居者様の身の回りで危険と思われる箇所への保護材の使用や撤去等も含め、日常生活の安全確保に努めた。また、情報の共有を密にする事で職員間でのケアの見直しを図り、統一したケアが行えるように情報の共有に努めた。

（３）精神的ケア

入居者様の楽しみを増やす為に、懐かしい音楽や映像を流しながらコミュニケーションを図った。また、多くは実施できなかったが、外出をする事で気分転換や精神的な安らぎを持って頂けるように心がけた。

（４）社会的ケア

日常生活の中で入居者様にも社会的関わりを意識して頂く為に、外出レクを取り入れ、外食やご近所の散歩など外へ目が向くように企画した。外食レクの際には、行く前から何を食べるか楽しみにされている入居者様の様子も見られた。

（５）環境整備

入居者様個人の使用物（車椅子）、また、居室内の清掃については、計画的に実施をしてきた。今後も、職員一同が清掃についても他の日常的ケアと共に重要である事をしっかりと認識し、より良い日常生活を送って頂けるよう清潔保持に努めていく。

（６）その他

年始頃より体調を崩される入居者様・職員が多数おり、早期の発見・予防・隔離等、感染症対策の知識がしっかりと活かしきれなかった為、感染拡大させてしまった。今後はより一層感染症予防に努め、日々、注意を払い業務に携わる。また、日頃より体調管理にも気を付けて、職員及び入居者様の体調不良について早期発見・早期治療を心掛けていく。

・３階

（１） ケアプラン

入居者様の身体状況の変化において職員間での情報の共有が不十分であり、適切な対応に遅れが生じる事が見られた。今後は、ユニット会議等を定期的に開催し、職員一人一人が入居者様の現状に真剣に向き合い、迅速且つ丁寧にケアプランを作成し、確実に実践していく。

（２） 身体ケア

1 月から 2 月にかけて体調を崩される入居者様、職員が多数見られた。（インフルエンザ感染：入居者様 2 名、職員 2 名）この事で長期の入院、欠勤に繋がってしまったが、見つめ直してみると職員の感染症対策への甘さが出てしまったと考えられる。この事を重く受けとめ、新年度に向けては職員一人一人が危機意識を持ち、また早期（11 月～4 月）より感染予防に努め、発症を未然に防いでいく。

（３） 精神的ケア

入居者様に楽しみのある日常生活を送って頂く為、お誕生日レクリエーション、食事レクリエーションを定期的に開催し、笑顔で喜ばれる様子が見られた。今後は外出、外食レクリエーションについても企画し、施設内の生活と違った雰囲気を楽しんで頂きたい。また、施設周辺地域の方々とのふれあいの場の提供も試みていく。

（４） 環境整備

清掃においては、全体的に職員の意識が低く、不十分であったと考える。特に入居者様個人の使用物である車椅子清掃においては汚れが目立ち、外部の方

からご指摘を受ける事も見られた。今後は重要課題の一つと認識し、ユニットリーダーを中心に計画的に実施し、清潔保持に努めていく。

（５） その他

職員の退職があり、負担が増えている状況で業務に取り組んでいる。今後は退職者が出ない為にもお互いをより思いやり、より助け合っていく必要があると感じている。また、新入職員においては適切な教育プログラムを実施し、働き続けられる職場環境の整備に努めていく。

・４階

入居者様が安全・快適な生活を送って頂ける様、ユニットリーダーが中心となり、対応に努めた。今後は、よりご家族とのコミュニケーションを図る事で、更なる生活の充実を図っていく。

事故防止においては、転倒・転落が計 19 件(骨折 2 件)、薬関連が計 9 件発生した。入居者様の身体や今後の生活に関わる事故である為、薬関連ではゼロを目標に、転倒・転落事故では、入居者様の ADL の状況を常に把握し、未然に防げる様に対策・対応をしていく。

入居者様の健康管理においては、9 月～10 月に食事・水分摂取量が下降している入居者様への対応が、後手に回ってしまった。その後は、職員間で意識を高め、様々な方法をユニット間や他部署で話し合い、食事・水分摂取量の確保に努めた。今後も食事・水分への意識を継続して、確保に努めていく。また、職員間で数名がインフルエンザを発症したが、早めの勤務調整と入居者様の体調管理・空調管理の徹底で、入居者様の発症はゼロに抑える事が出来た。次年度も、引き続き発症ゼロを目標に取り組んでいく。

入居者様に楽しみのある生活を送って頂ける様、毎月 1 回のペースで、レクリエーションを実施した。次年度も引き続き、誕生日会や季節に合わせたレクリエーションを企画していく。

離職者ゼロを目標に掲げていたが、退職者が 1 名（体力的理由）出てしまった。今後は、職員間でお互いを気遣い、フォローし合える環境を築くと共に、ユニットリーダーが中心となり、一般職員のスキルアップを図っていく。

〔９〕デイサービス

【安心してご利用いただけるデイサービスの運営】

ご利用者様、ご家族に信頼されるデイサービス作りを目標とし、職員の質の強化を図り、細かな要望に対応できるサービスを進めた。

【利用内容の明確化】

① 新規実調時にサービス利用時の細かな時間及び活動内容を説明した。

② ケース記録をパソコン及び紙ベースの両方に記載した。

【利用受け入れ態勢の強化】

① ご家族、ケアマネジャーのご希望に合ったご利用曜日を設定し、入浴形態もご本人の意思に沿って実行受け入れを行った。

② 新規ご利用前の見学、体験利用を勧め、ご本人、ご家族ご同意の上での契約を行った。

【個別援助の充実】

ご利用者様の多彩なニーズに応えるべく、現存のアクティビティ（集団援助）及

び各種体操（集団的訓練）に加え積極的な声掛けを実施し、ご本人が抱えている問題を汲み取り、担当ケアマネジャーへの報告を行い問題解決への連携を強化。又、看護師の指導の下、個別機能訓練（残存能力の維持・強化）を行いケアマネジャー及びご家族へ報告を行った。
感染予防につきましてはご利用者様来所時には「うがい」・「手洗い」をして頂き感染予防に努め、『清潔な空間の提供』との気持ちを持って取り組み、利用者様帰宅後のサニタリー空間のアルコール及び次亜塩素消毒を毎日実践し、結果インフルエンザ等の感染はなかった。今後も引き続き感染予防に取り組む。

【実績報告】

上期においては計画通りに推移、下期において全国的に猛威を振るったインフルエンザの影響からか 11 月頃より利用者急減し、また 2 月の雪の影響もあり総利用者数は 5992 名（前年度比 351 名減、－5.5%）となった。
尚、現在介護度 3 の方 7 名、介護度 4 の方 8 名、介護度 5 の方 3 名利用されている。

【登録者数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
28 年度	62	63	64	67	67	66	64	63	65	64	61	58
29 年度	61	64	62	62	61	61	59	58	57	58	58	60

【営業内容】

定期的な居宅支援事業所への挨拶を行い利用者獲得に努めた。

【一日平均利用者数】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
28 年度	21.9	21.9	22.0	20.5	20.5	21.2	20.9	20.3	19.7	18.3	18.5	20.2	20.5
29 年度	19.3	19.5	20.1	20.8	21.0	21.2	20.9	19.3	17.7	17.1	18.0	18.1	19.4

【延べ利用者数】

平成 29 年度

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総合計(人)	男	125	139	145	156	149	164	168	162	169	141	157	167	1842
総合計(人)	女	358	382	377	385	414	386	374	341	286	251	275	321	4150
総合計(人)	合計	483	521	522	541	563	550	542	503	455	392	432	488	5992

平均介護度

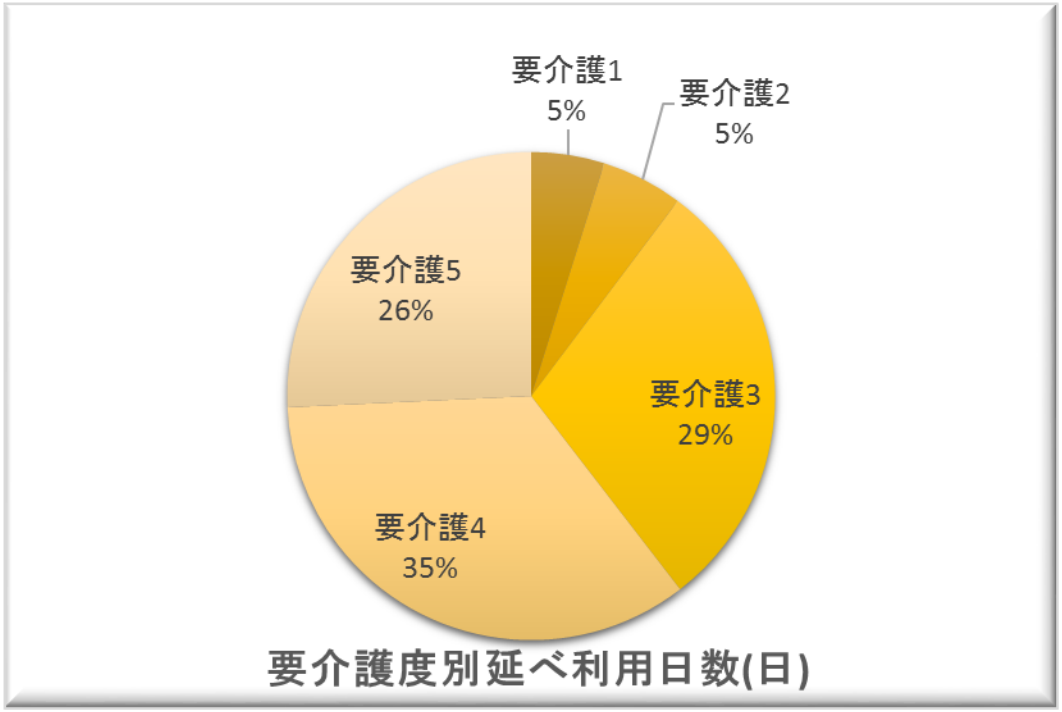
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
平成 28 年度	2.6	2.6	2.5	2.5	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5
平成 29 年度	2.6	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5

〔１０〕ショートステイ

１．　利用実績

（１）１日あたりの利用者数：21.8 人

（２）総利用数　7,957 人



（３）要介護 3～5 の割合は全体の 90%を占めている。例年、要介護 3 以上の割合と全体の平均年齢も増えている。

（４）これまでの施設送迎の時間帯が、8 時～18 時頃までとしていたが、施設送迎の実施時間が、8 時～8 時 30 分と 18 時～18 時 30 分に偏在し職員の残業や安全運転管理の面から、平成 29 年 12 月から試験的に施設の送迎時間帯を、8 時 30 分～17 時 30 分へ変更。本 30 年度より本格化。

（５）ショートステイの利用に至る傾向として、ご家族が友人・知人へ紹介や相談が相次いでいる。特長として、ご利用者様の満足度、ご家族の安心感を十分に得ていると実感している。また、定期アンケートの結果からも、顧客満足度が約 90%(大変満足、やや満足)である。

（６）予約申込が相次ぎ、ご希望の予約が取れない状況が現在も続いている。
平成 24 年 10 月から 2 床増床(計 18 床)で稼働し、6 期連続において目標の稼働を超えている。

〔１１〕居宅介護支援事業所

【少し先を考える力】

29 年度、「気づきの力」をテーマとして行動してきた。利用者様に対しても、自分自身についても、強み・弱みともに気づき、そこから考えて行動できるようにという思いからであったのだが、“少し先を考える”という力についてはまだ不足しているように感じている。

気づいた点について優先順位をつけて行動をするだけでなく、その行動（たとえば解決案であったとして）のもう少し先を照らししめす必要があると考えている。

〇事業所として

29 年度は年度序盤で 1 名が退職することとなり、1 名での活動が大半となった。この点については行えることには取り組むように心がけたものの担当利用者数を増やしにくい状況になり、総合的には事業所として力不足であったといえる。

〇ケアマネジャーとして

1 名での活動となったため事業所の反省が自らの反省へと直結した形となっているが、利用者様に対してのすばやい対応については心がけていたこともありかなり行えていたように感じる。しかしながらプラスアルファとなるような活動や行動がとれなかったという反省点のほうが大きい。

もう少し効率的にバランスよく活動ができるようなケアマネジャーになるべきだと思っている。

平成 29 年度　事業報告書

2018 年（平成 30 年）6 月 3 日 発行・印刷

監修・編集　社会福祉法人　芳清会
印刷・製本　社会福祉法人　芳清会
TEL　049-247-7311
FAX　049-247-7312
URL　http://www.houseikai-y.jp/
E-mail　yasenosato@houseikai-y.jp